

前田川調査出現生物のまとめ

横須賀市自然・人文博物館

学芸員 萩原清司

〈確認動物種〉

貝類：カワニナ、イシマキガイ

甲殻類：ヌマエビ、スジエビ、ヒラテテナガエビ
モクズガニ、サワガニ

昆虫：ヘビトンボ幼虫、ガガンボの一種幼虫
トビケラ類幼虫

魚類：シマヨシノボリ、クロヨシノボリ
ルリヨシノボリ、スミウキゴリ



～ 前田川の水生物たち ～

〈解説と評価〉

指標生物からみた水質環境は、「きれいな水」に生息するとされるヌマエビ、スジエビ、サワガニ、ヘビトンボの幼虫などが過去の前田川調査と同様に確認されており、水質的には良好な環境を維持していると評価できる。

しかしながら、過去の前田川調査と比較すると、水生昆虫の出現が種数、個体数ともに非常に少なく、特に砂底性のサナエトンボ類やモンカゲロウ類が全く見られなかった。このことは前年度の関根川調査と同様に、9月の大型台風の直撃による河川の増水や土砂流出による砂質河床から泥質河床への形質変化をしたことに影響されたことが推察された。

台風による増水は魚類のヨシノボリ類にも影響したものと考えられ、例年では調査範囲の最上流部でのみ確認されていたクロヨシノボリが下流側で複数個体が

採集され、2014年の横須賀市自然環境共生課と横須賀市自然・人文博物館の共同調査によって、本調査の範囲より上流側に分布することが確認されていたルリヨシノボリが本調査の範囲で出現している。

また、例年では夏季～秋季に出現する南方系ヌマエビ科のトゲナシヌマエビやミズレヌマエビが確認されず、稚エビの分散期にあたる7月の気温の低さや度重なる台風による増水が稚エビの遡上を阻害した可能性が考えられた。

新しく記録された種としてイシマキガイがあった。本種は三浦半島では逗子市や三浦市での分布は古くから知られていたが、前田川からは2014年の初記録以降、個体数を増加させている。この分布が自然な拡散なのか、人為的な移入によるものかは明らかではないが、近年急速に増加しているのは間違いなく、今後の動向に注目すべきである。

